

(別紙：出演者ご紹介)

	<p><b>指揮者：曾我 大介</b></p> <p>東京ニューシティ管弦楽団正指揮者。桐朋学園大、ブカレスト音大、ウィーン音大等で、ハイティンク、シノーポリ、ラーヨビッチ、田中雅彦他諸氏に師事。プザンソン、コンドラシンの優勝をはじめ、ヨーロッパを代表する指揮者コンクールで上位入賞。大阪シンフォニー音楽監督、ルーマニア放送響首席客演指揮者、東京ニューシティ管首席指揮者などを歴任。作曲家としても活動する一方、海外の講習会等で後進の指導にもあたっている。</p> <p><b>コメント：</b></p> <p>生命の危険にさらされ、生活を奪われた難民の姿を見ると、つい四半世紀前の東西ヨーロッパの状況を思い起こします。若い世代の音楽家たちのインスピレーションが平和へのメッセージとなるよう、皆で声を上げました！</p>
	<p><b>指揮者：西谷 亮</b></p> <p>指揮を曾我大介氏、シメオン・ピロンコフ氏、杉山直樹氏に、和声・作編曲を伊藤康英氏、音楽一般論などを井崎正浩氏、トランペットを松本浩太郎氏、北村源三氏、コンラディン・グロート氏に師事。国内外で開催された国際指揮セミナー・マスタークラスなどに参加し、研鑽を積む。各地のオーケストラ・吹奏楽団などの共演も多数。好評を得ている。</p> <p>プロッサム フィルハーモニック オーケストラ 音楽監督兼常任指揮者、東京シティオペラ協会 副指揮者、東京オペラ協会管弦楽団 指揮者。東京シティオペラ協会会員。</p> <p><b>コメント：</b></p> <p>先の大戦を契機に始まったといわれる難民とその支援活動は、ヨーロッパ、アジア、アフリカなどを経て、今、中東から、またヨーロッパへと・・・問題は輪廻を繰り返しているかのようです。私たちができることは、想いをもち、仲間と共に行動を起こすこと。その輪廻から解放される日を願って。</p>
 <p>@Leon</p>	<p><b>指揮者：中島 章博</b></p> <p>早稲田大学理工学部、東京大学工学系研究科を経て、ザルツブルク・モーツアルテウム大学指揮科に留学。</p> <p>これまでに国内外の多くのオーケストラを指揮する他、TBS テレビ「マツコの知らない世界」や、乃木坂 46「羽根の記憶」のミュージックビデオに出演するなど幅広い活動を行っている。</p> <p>指揮を故クルト・レーデル、デニス・ラッセル・デイヴィス、ホルヘ・ロッター、曾我大介、シメオン・ピロンコフの各氏に師事。博士（工学）。</p> <p><b>コメント：</b></p> <p>世の中の情報がすぐ手に入り世界の距離がより近くなった今日、難民の問題をはじめとする諸問題は、もはや該当国だけの問題とは言えなくなっていると感じます。ベートーヴェンの理念を通じ、音楽の力を信じ、一体となって支援の心を届けたいと思います。</p>
	<p><b>指揮者：和田 一樹</b></p> <p>尚美学園大学作曲コース卒業後、東京音楽大学指揮科に入学、卒業。これまでに作曲を坂田晃一、指揮を曾我大介、汐澤安彦、広上淳一に師事し、いわき指揮講習会にて小林研一郎に師事。2011年、第31回ブラジルロンドリーナ音楽祭において優秀者に選ばれオーケストラを指揮。オーケストラアンサンブル金沢主催、第1回井上道義指揮講習会にて優秀賞を受賞しコンサートを指揮。今年9月に行われたブカレスト国際指揮者コンクールで準優勝を果たした。</p> <p><b>コメント：</b></p> <p>僕たちができることは限られているかもしれない。しかし、この問題について少しでも考え、行動することこそが、まさにベートーヴェンの理念であるように思えます。このメンバーの想いが全世界に届くことを願っております。</p>

	<p><b>指揮者：碓山 隆一郎</b></p> <p>鹿児島県・喜界島生まれ。幼少よりピアノと電子オルガンを学ぶ。</p> <p>私立浜松学芸高等学校電子音楽科を卒業後、2010年東京音楽大学音楽学部音楽学科作曲指揮専攻（指揮）卒業。</p> <p>2014年夏 Branimir Slokar Academy(スロヴェニア)のマスタークラスにおいて、Klaus Arp のレッスンを受講し、終了演奏会では Ljubljana International Orchestra を指揮した。</p> <p>指揮を広上淳一、汐澤安彦、関谷弘志、曾我大介の各氏に師事。</p> <p>現在、ドイツ・マンハイム音楽大学において研修中。</p> <p><b>コメント：</b></p> <p>命。それは言葉では表現しきれない尊いものです。世界では命を否定する、痛ましい紛争や問題が相次いでいます。音楽で命を救うことはできないかもしれませんが、命について考え、この強い思いが音と調和し一人でも多くの人々に届くことを願っております。</p>
	<p><b>ピアニスト：石井 楓子</b></p> <p>神奈川県生まれ。2013年 第 82 回 日本音楽コンクール第 1 位、併せて野村賞・井口賞・河合賞・三宅賞を受賞。本選ではラフマニノフの協奏曲第 3 番を演奏し、女性では 8 年ぶりの受賞となった。今年度は三善晃のピアノ協奏曲、ブラームスの協奏曲第 2 番をオーケストラと共演するなど、幅広いコンチェルトレパートリーを持つ。桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学卒業。2015年よりドイツ・ケルン音楽大学、Claudio Martinez-Meher 氏のもとで研鑽を積んでいる。</p> <p><b>コメント：</b></p> <p>武力紛争そして難民に関する連日の報道から、戦争の深い負の連鎖を実感し、心を痛めています。200 年前にベートーヴェンが世に残してくれた平和への強いメッセージを、素晴らしい共演者の方々と共に皆様の心へお伝えできますように。</p>
	<p><b>ピアニスト：富永 愛子</b></p> <p>東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業後、ドイツ国立エッセン・フォルクヴァンク芸術大学を首席で卒業。2008年東京音楽コンクールで優勝。近年『紀尾井ニュー・アーティスト・シリーズ』、『Navigator コパケンのクラシック入門コンサート』等に出演した他、2014年には東京文化会館(小)でソロリサイタルを開催し、「音楽の友」誌上で「プリズムの光彩のように変化する音色、映像が浮かぶ表現力。」と評された。ソリストとしてこれまでに日フィル、都響、東響、東京シティフィル等と共演。菊地麗子、東誠三、ヘンリ・シーグフリードソン各氏に師事。</p> <p><b>コメント：</b></p> <p>世界中で絶え間なく続く争い事や困難。音楽が直接それを解決することはできませんが、美しく示唆に富む音楽を通して、その可能性が平和に繋がっていくことを信じ、その実現に向け、微力ながら私も一人の演奏家として発信し続けたいと思います。</p>
 <p>@Arei Komatsubara</p>	<p><b>ピアニスト：今川 裕代</b></p> <p>シュトゥットガルト国立音楽大学、ザルツブルグ・モーツァルテウム国立音楽大学大学院首席修了。A・マルシャン、H・ライグラフ各氏に師事。サレルノ、シューベルト、ブラームス、ルビンシュタイン国際コンクールにて優勝や入賞。英国王室での御前演奏やヨーロッパ各地の音楽祭、N響、東フィル、新日本フィル、関フィル、アンサンブル金沢、ブルノ・フィルなど数多くのオーケストラと共演している。大阪芸術大学客員准教授。</p> <p><b>コメント：</b></p> <p>世界の混迷の中で音楽は希望の形であると信じています。</p> <p>コンサートでは、作り手・弾き手・聴き手の平和への思いが一つになり、支援の輪が広がっていくことを願いながら、ベートーヴェンが全身全霊で書いた音楽に祈りを込めて奏でます。</p>

	<p><b>ピアニスト：高橋 望</b></p> <p>埼玉県秩父市出身。第 13 回園田高弘賞ピアノコンクール第 3 位、第 2 回 G・ガンドルフィ国際ピアノコンクール第 2 位。ドレンデン国立音楽大学にて演奏家資格試験を最優秀で修了。同大学院マイスタークラス修了。NHK-FM 名曲リサイタル、NHK-E テレビ「ららクラシック」等で演奏が放送される。ライフワークのゴルトベルク変奏曲で毎年リサイタルを行う。最新 CD「バッハ・ゴルトベルク変奏曲」はレコード芸術で準特選盤となる。</p> <p><b>コメント：</b></p> <p>ベートーヴェンは困難な時期においても希望を捨て去らずにいた人だったと思います。今回のベートーヴェンの演奏会により世界の平安を祈る気持ちをいっそう強し、明日への希望をつなげていきましょう。</p>
	<p><b>ピアニスト：仁田原 祐</b></p> <p>1990 年福岡県生まれ。東京藝大附属音楽高校を経て、東京藝術大学を首席で卒業。同大学大学院修士課程を修了した後、現在ザルツブルク・モーツアルテウム大学に在学中。</p> <p>第 6 回安川加壽子記念コンクール第一位。ピナーレ国際コンクール(ドイツ)にて入賞、2 つの特別賞を受賞。日本はもとより、フィンランド、オランダ、ドイツ、韓国等においてリサイタルやコンサートに出演。これまでに野沢優子、多美智子、江口玲、パーヴェル・ギリロフの各氏に師事。</p> <p><b>コメント：</b></p> <p>世界で止むことのない難民問題。テレビの中の出来事だったものが、ヨーロッパに留学している今、とても身近なものに感じます。人種、国籍を超え愛されるベートーヴェンの音楽を通し、平和へのメッセージを少しでも届けることが出来ればと思います。</p>
	<p><b>ヴァイオリニスト：中村 太地 (ソリスト兼客演コンサートマスター)</b></p> <p>3 歳よりヴァイオリンを始め、9 歳で九州交響楽団とオーケストラ初共演。権威ある国際コンクールにおいて、第 5 回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール入賞、第 8 回アラム・ハチャトリアン国際音楽コンクール第 3 位、第 22 回ブラームス国際コンクール第 3 位、第 7 回フリッツ・クライスラー国際コンクール特別賞などの成績を収める他、ネディヤルカ・シメオノヴァ国際コンクール第 1 位、第 2 回ヴァスコ・アバディエフ国際コンクール最高位、成都光亜国際コンクール 2015(中国)第 3 位などその他国際コンクール多数入賞。また、これまでに九州交響楽団、名古屋フィルハーモニー管弦楽団、サンクトペテルブルク交響楽団をはじめ国内外の多数のオーケストラと共演。ウィーン室内管弦楽団のメンバーとしても活動を行う。</p> <p><b>コメント：</b></p> <p>この度は出演させて頂きまして光栄に存じます。</p> <p>社会から隔離された世界で活動してしまうことの多い音楽家が唯一、社会貢献できる機会がこのような福祉活動であると思っております。幼少期より“音楽家がいかにして困窮している方々や社会の役に立てるか”というテーマについて考え、漠然とユニセフの親善大使のような活動が出来ればと考え、これまでも NPO 法人ロシナンテスさんにご協力頂いての東日本大震災支援チャリティーコンサート等、チャリティー活動にも積極的に取り組んで参りました。このような活動を継続的に行っていければ嬉しく思います。</p>
<p><b>管弦楽： Blossom フィルハーモニックオーケストラ</b></p> <p>Blossom フィルハーモニック オーケストラは、2008 年に活動を開始したプロフェッショナルオーケストラです。音楽監督兼常任指揮者・西谷 亮のもと、演奏に意欲を持つ新進気鋭の若き演奏家を中心となって集まり演奏活動を行っています。</p> <p>特にクラシック音楽に初心者の方々へ向け、オーケストラによる演奏をより身近に、そして気軽に楽しんでいただくためプログラムの構成から、プレトークやロビーコンサート、公開リハーサルの開催、「深川クラシック」(音楽俳句)や絵画の募集など多彩な企画を実施しています。また、こども達へ CD や DVD では伝わらない“生の演奏”の響きと迫力を気軽に肌で感じていただくため、地元である東京都江東区在住・在学の小中学生には無償招待を実施するなど、クラシック音楽のすそ野を広げていくための活動にも注力しています。</p> 	